

The social welfare in OSAKA



大阪の 社会福祉

2023年12月

823



社会福祉法 大阪市社会福祉協議会

<https://www.osaka-sishakyo.jp>



地域福祉活動を知る機会づくり



5面 鶴見区

まっ たひがし
茨田東地域の初挑戦!
皆さんがもっと笑顔で元気になるように
～フードマルシェ～

HB

妻の誕生日に、娘が奈良のホテルを予約してくれた。遠くない所で、ゆったりできる所という私たちのリクエストに応じて、猿沢の池近くの、有名な歌人も利用したという宿は、私が思う奈良らしさにあふれていた▼朝夕の6時には、興福寺の鐘の音が響き、池の周囲を散歩すると、五重塔が水面に映り、紅葉した桜の葉が舞っていた。ヒノキの浴場も、純粹和風の食事も、まさに奈良にきたという感じ。歌人の奈良愛が私にも感じられた▼せっかく奈良に来たのだからと、国立博物館の正倉院展を見ようとしたが、予約して並んでいる人の列が異常で、博物館の建物を超えて延々つながっていたので、さっさとあきらめた▼宿への満ち足りた気分の中で、はっと気づいた。予約は娘がしてくれたのだが、この支払いに誰がするのだろうか。妻も同じ心配をしたようで、カードを出せば何とかかなるよと、財布の中身をのぞきながら居直っていた▼残念ながら、親切な娘も事前に支払ってくれていることはなかった。しかし、私でも払える額で、妻へのいいプレゼントになった。(石)



大阪市社会福祉大会開催

市社協は、10月20日に、大阪国際交流センターで、令和5年度大阪市社会福祉大会を開催し、約800人の方々に来場いただきました。社会福祉大会では、地域福祉の推進に永年尽力され、功績が顕著な社協役員及び民生委員・児童委員、社会福祉施設などの職員や、協力援助を通じて寄与された個人及び団体の皆さまへ、表彰状・感謝状を贈呈する式典とともに、今回は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行後、初めての開催ということで、3年ぶりに、表彰式典だけでなく第2部として講演会も開催しました。

新たな課題の解決に向けて

第1部の式典では、はじめに、市社協の永岡正己会長があいさつをしました。

「本市の社会福祉の発展のためにご尽力いただきました方々に、永年にわたるご労苦とご功績に対しまして、深く敬意を表しますとともに、心からお祝いを申しあげます」と感謝の意を述べるとともに、「急速に進展する少子高齢化や社会構造の変化の影響を受け、住民同士

つながり希薄化する中、社会的孤立や生きづらさを抱える人が増えるだけでなく、長期にわたる新型コロナウイルス感染症の大きな影響に加え、国際情勢による物価高騰も重なり、生活が困窮状態に陥る人も増え、地域における生活課題が複雑化・多様化・深刻化しています。こうした課題は既存の社会福祉制度の整備のみならず、新たな課題の解決に向け、雇用・教育・介護、生活保障などの横断的な

仕組みの発展が求められるとともに、地域の人々のつながりを強め、地域社会全体で課題を抱える人に寄り添い、その生活を支える取組みを広げることが求められている。本会では、地域福祉を推進する中核的な団体としての役割を果たすため、各区社会福祉協議会をはじめ、関係団体などの連携を一層強化し、新しい事業を創り出し、「一人ひとりの人権が尊重され、誰もが自分らしく安心して暮らすことができる、やさしさとぬくもりのある福祉によるまちづくり」の実現に向け、地域福祉の取組みを進めてまいります(一部抜粋)と述べました。



▲第1部式典であいさつする永岡会長

次に、永岡会長及び横山英幸大阪市長から、それぞれ表彰状・感謝状の贈呈をおこないました。会長表彰として、計136人、6団体が受賞されました。大阪市長からの表彰としては、計402人、55団体が受賞されました。

互いに助け合い、支え合う平時からのつながりをめざして

式典の最後に、本会の多田龍弘副会長から、大会宣言(案)を朗読し



▲永岡会長から代表の方々へ表彰状を贈呈

ました。「本会は、地域福祉推進の基本目標を掲げた『第2期 大阪地域福祉活動推進計画』に基づいて、『場づくり・つながりづくり』『見守りと生活支援・相談支援』『地域づくり』に関する取組みを各区社会福祉協議会と一体となって進め、身近な地域の中で『つながり・支え合うことができる福祉コミュニティづくり』を推進している。また、台風や大雨等による大規模災害が全国各地で発生しており、自然災害に対する備えも早

及び各区社会福祉協議会が果たすべき役割はますます重要となっており、地域住民の参画も得ながら、行政、社会福祉法人、NPO、企業など関係団体・機関と連携・協働し、地域生活課題を解決していくことが求められている。本日、令和5年度大阪市社会福祉大会を開催するにあたり、福祉に関わるすべての機関や地域の人びとの厚い信頼に応え、誰もが身近な地域で人とつながり、平和で安心して暮らせるよう、隣人愛の精神をもって「一人ひとりの人権が尊

急に進めなければならぬ。災害時において、公助はもとより、大きな力となる自助・共助による住民同士の助け合い活動が展開できるよう、平時の地域福祉活動をさらに進めていくことが必要となっている。このように、互いに助け合い・支え合う地域共生社会の実現を図るうえで、地域福祉推進の中核的な団体である本会



▲大会宣言を朗読する多田副会長

重されるやさしさとぬくもりのある福祉によるまちづくり」を推進する(一部抜粋)と宣言し、参加者の拍手による賛同を得て、大会宣言は原案どおり採択され、より一層の地域福祉推進に向け決意を新たにしました。

「共育」とは

第2部では、落語家の桂福丸さんをお招きし、「共育」が生む、きずなくコロナを乗り越えて〜」をテーマとした講演と落語をおこなっていただきました。桂さんは、「子どもだけ寄席」など、落語家として独自の活動をする傍ら、ご自身がお住まいの地域でこどもの見守り活動などに幅広く活動されています。講演では、オンラインと対面とのコミュニケーションの違いに

ふれ、会話に笑いやユーモアを入れたり、相手の話に驚くことで、コミュニケーションがより豊かになるといった実体験に基づく内容で、大人も子どもともに学び合い、育ちあう「共育」の大切さを学ぶ機会となりました。最後に、落語を一席披露いただき、会場内が笑顔に包まれました。



▲「共育」をテーマに講演する桂福丸さん

表彰状・感謝状受賞一覧

市社協会長表彰

- 功労表彰 83人
- 優良社会福祉協議会表彰 1地域
- 永年勤続表彰 53人
- 感謝状 5団体

大阪市長表彰

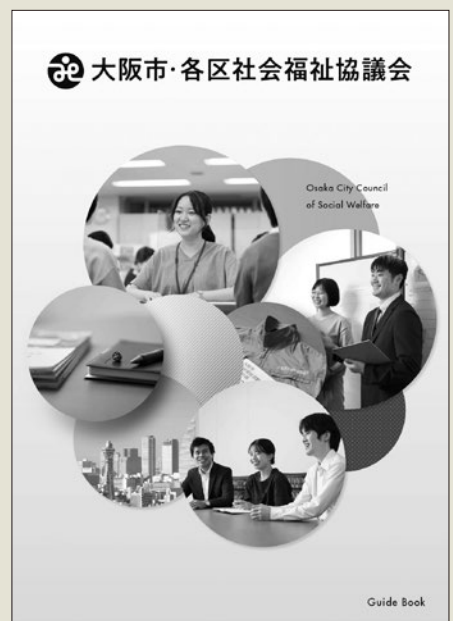
- 地域福祉推進功労者表彰 16団体・32人
- 地域福祉推進功労者感謝 39団体・104人
- 社会福祉施設等従事者表彰 81人
- 社会福祉施設等従事者感謝 185人

市・区社協のパンフレットをリニューアル

「大阪市・各区社会福祉協議会」事業紹介パンフレットをリニューアルし、大阪市社会福祉大会でも配付しました。市社協・区社協の事業や役割をわかりやすく紹介するため、図や写真を用いながら事業ごとに作成しています。全ページ内容は、本会ホームページからご覧いただけます。



ホームページはこちら▼



つながることをあきらめない 「港区第3期地域福祉活動計画」 おひろめ会



地域の思いの あふれる計画を 知り合う

港区社協は、「港区第3期地域福祉活動計画」おひろめ会を10月28日に港区民センターで開催しました。令和4年度に同区の各地域で開催されたワークショップでこれまでの活動をふりかえり、コロナ禍で見えてき

た課題や取組みなどの新たな視点を加え、11地域の特徴ある計画が策定されました。「自分たちの地域を良くしていきたい」という思いがあふれる計画を地域をはじめ、区内の社会福祉施設、企業、団体の皆さんに知って、参画してほしいという思いでおひろめ会を開催し、150人の参加がありました。

第1部では、第1期計画（平成26～30年度）の策定から助言者として関わる大阪成蹊短期大学の鈴木大介先生から「つながることをあきらめなかつた地域福祉活動計画」をテーマに講演がありました。鈴木先生からは、今回の計画のおすすすめポイントとして、「つながり」を保ち、お互いを支え合うためにさまざまな試行錯誤と工夫が積み上げられてきたことや、ワークショップで皆さんが力を合



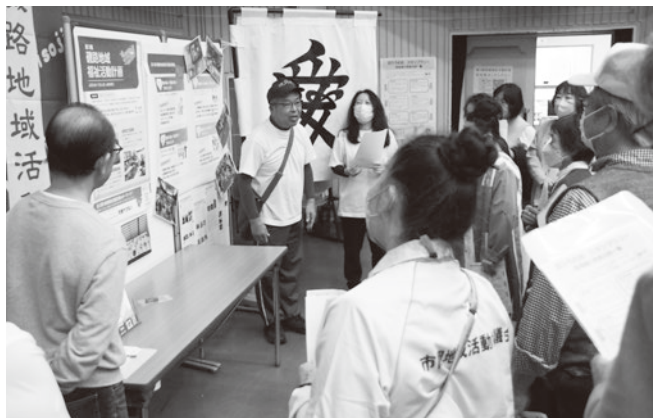
▲計画のポイントについて鈴木先生から説明

わせてつくられた計画であること、また、策定後も「実践しながら」「適宜チェックする」という一連の流れを意識されていることが解説されました。



「おひろめ」を 「楽しみ、 ふれあいましょよう

第2部では、11地域が工夫を凝らして計画の内容を分かりやすくまとめたポスターをもとにプレゼン（ポスターセッション）がおこなわれました。7分のプレゼンタイムで地域の皆さんから計画のポイントや思いが熱く語られました。また、区社協の各地域を担当する職員がそれぞれ地域の方のプレゼンをサポートし、計画の全編や詳細をスマートフォンで見ることができるよう2次元コードを資料や会場に掲示しました。プレゼンでは「コロナ禍以前の取組みや状態を取り戻していけるようお互いに知り合い支え合うプロジェクトをすすめていきたい」「多世代で触れ合える取組みを中高生が手伝ってくれている」というような具体的な取組みが説明されました。参加者からは「活動に参加するにはどこに相談したらいいの？」という質問や、福祉施設の方から「安心して住み続けられるまちづくりには、私たちも貢献していきたい」という声がありました。



▲11地域が工夫して作成したポスターをもとにポスターセッション



つながることを あきらめず 継続を

最後に、鈴木先生は「ポスターセッションでは計画



▲計画にこめた思いを地域の方が熱心にプレゼン

に書かれている以上の情報を知ることができた。また、各地域の活動者の方々も工夫されていることやポイントを相互に知り合うことができた。計画にはつながることをあきらめなかった人たちが描いた、まちのしあわせへの道筋が示されています」とまとめました。

区社協の西川博子地域支援担当係長は、「ポスターセッションで地域の皆さんの熱い思いを聞くことができてあらためて地域の力を感じた。その思いをカタチにし、継続していけるよう区社協としても支援していきたい」と話しました。

まっ た ひがし
茨田東地域の初挑戦！
皆さんがもつと笑顔で元気になるように
「フードマルシェ」



地域の課題から考え、
初開催

11月18日に茨田東連合振興町会が主催となり、茨田東福祉会館でみんなが輝けるまちづくり「フードマルシェ」が開催されました。このイベントは、高齢者の閉じこもり予防や外出のきっかけになればと企画されたもので、当日は想定を上回る118人もの参加がありました。

午前10時から午後2時まで区内の施設やこども食堂、企業



▲初開催でしたが、たくさんの方が参加しました

など、さまざまな団体が出店し、野菜、果物、洋菓子、パンなどの販売や団体によるキッチンカーでの出張販売がおこなわれたほか、幅広い世代が交流できる場としてワークショップも実施されました。当日スタッフが参加できなかった企業のブースについては、ボランティアが販売や受付、警備などを担い、活躍の場にもなりました。

また、困りごとの相談があれば対応できるよう、介護の相談コーナーも設けられました。

開催時の様子



▲「何にしようか」と会話を楽しみながら買い物しました



▲ワークショップで「アートプラントづくり」

閉じこもり予防で
外出のきっかけづくり

このイベントの開催に至ったのは、地域での話し合いがきっかけでした。茨田東地域の高齢化率は33%と高く、高齢者の孤立や閉じこもりが課題となっていたことに加えて、スーパーのほとんどが閉店してしまい、買い物に困難になっている方の増加が課題となっていました。

そこで、課題解決に向け、今年の夏から月2回のペースで、

区社協の生活支援コーディネーター、茨田東連合振興町会、茨田大宮プランチ、地域住民ボランティア、企業、施設・団体と検討会議を重ねてきました。開催にあたっての内容や当日のレイアウト、周知方法などの打合せをおこない、企画し、実現に至りました。

フードマルシェ
ならではの楽しみ方

当日は初開催だったため、運営に携わる人たちのなかでは何人参加してくれるかを心配している様子もありましたが、開始時間の午前10時よりも前に多くの方が集まりました。

参加者は各出店ブースの商品をゆつくり見ながら、会話を弾ませ、フードマルシェならではの買い物を楽しめるひと時を過ごされていました。

初開催を終えて、桑名一夫連合振興町会長は「茨田東地域は高齢化率が高く、高齢者の閉じこもりや買い物難民が増加していることなどを課題に感じている」と話しました。



▲「今後も地域の課題解決に向けて取り組んでいきたい」と桑名会長

ました。この課題解決に向け、初めて取り組みましたが、久しぶりに近所の方と顔を合わせる機会になり、また参加者からも好評だったので、今後も年に何回か開催していきたいと思いを話しました。

今回立上げに関わった区社協の倉谷弥生第2層生活支援コーディネーターは「参加した皆さんの満面の笑顔があふれたマルシェでした。このマルシェを通して、地域に根づいている店舗、企業、施設がつながるきっかけにもなりました。『また開催してほしい』『また開催しよう』の声に答えられるよう、担い手を力強くリードする桑名会長のものと、地域の方と話し合いを重ね、進めていきたいです」と話しました。

参加者や担い手の声

- 野菜などいろいろと購入できてよかったし、知り合いと会うこともできて楽しかった。
- 友達を誘ったけど、今日はダメだった。またこのイベントがあれば、誘って一緒に来たいと思う。
- 障がい者支援施設「つるみの郷」の利用者が、笑顔で活動できました。週明け月曜日に「楽しかった」と何度も言っていました。
- マルシェをやって、周りの人が優しくかった。ほかのブースの手伝いもできて楽しかった。(こどもの居場所団体「蒼組」のこどもたちより)

被災想定を学び、 社協の支援活動を考える



社協には、地震や台風などの大規模な自然災害が発生時に、困りごとを抱えた被災者と、ボランティアをつなぐ「災害ボランティアセンター」を運営する役割があります。いざというときにその役割を果たせるよう、

市・区社協は、災害対応に関する職員研修・訓練、住民向けの講座などにさまざまな形で取り組んでいます。

西淀川区社協では、11月1日、8日、15日の3日間に分けて、職員対象の研修を実施しました。講師に任意

団体「大阪防災企画」代表で防災士の多田裕亮さんを迎え、計34人が受講しました。



地元若手専門家
とともに

▲西淀川区の被災想定を説明する多田さん

生まれも育ちも西淀川区という多田さんは、「このまちを災害の脅威から守りたい」との志から、大学院で研究しながら、大阪府下を中心に防災教室、ワークショップなどの活動に取り組みでい

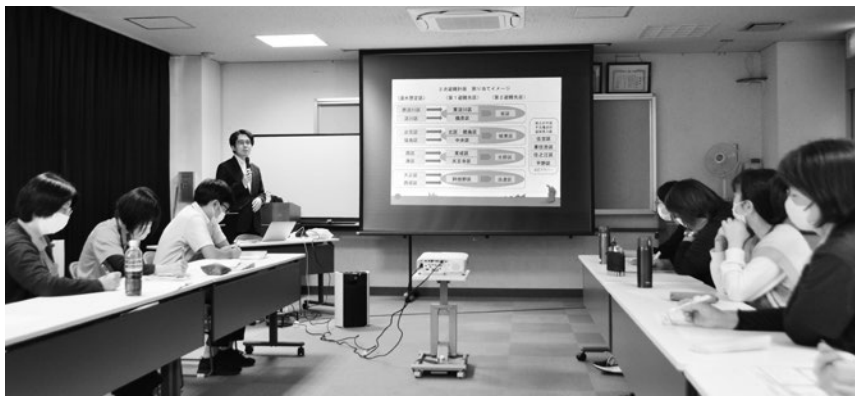
ます。淀川右岸水防団や地域の防災リーダーなど、地元西淀川区でも活動する多田さんに、以前からつながりがあった区社協から「災害支援、防災に関する啓発などで今後協働できれば」との思いで依頼し、研修が実現しました。



地震・津波、
その時西淀川区は

今回は災害ボランティアセンターの設置・運営以前に、まずは自分たちの区の被害想定を知り、区民の暮らしへの影響を考えるため、多田さんから大きな地震のメカニズムや具体的な備えについて学びました。

西淀川区は、市内でも特に津波による浸水が想定されるエリアで、南海トラフ巨大地震の場合、116分後に最大5・6mの津波が襲来すると想定されています。「これは最悪の想定であり、地震の規模や、水門・防災扉が閉まっている場合など、ここまでに至らないことも想定されます」と多田さん。過去にあった地震では、大地震の



▲3日間にわけて区社協職員を対象として実施 (写真は11月1日開催分)



「防災はハザードマップの入手から始まる」と多田さん。「職員もまずは自身への自助に意識を向けること、家族とは事前の約束をしておくことが大事」と強調しました。

勤務地や居住地での被災想定を把握し、家族との間では想定される避難先や連絡手段をあらかじめ決めておくことで、自助にかける時間をあらかじめ見積もり、すみやかに判断し、いち早く支援活動に移ることができそうです。

また、こうした想定を常に意識することで、区社協の日頃からの事業と、防災をかけ合わせることもつながります。研修終了後、講師と職員の間で「災害時にはLINEが有力な連絡手段になる。高齢者向けのスマホ講座に、防災要素を入れた企画が一緒にできれば」と新たな構想も話し合われました。

本研修をスタートラインとして、西淀川区社協では今後、災害ボランティアセンターの設置・運営に向けたワークショップなどにつなげていくこととしています。

1日後に2度目の大きな揺れが直撃するなど、さまざまなパターンがあり得ることが紹介されました。

また、同地震による大規模な津波被害が発生した場合、西淀川区では4日程度の垂直避難（一定の高さのある屋内での安全確保）が想定されており、その後、自宅に戻れない人は、津波被害がない他区へ2次避難するという計画が検討中との情報も共有されました。

体のなかを知ることから認知症の理解を深めよう くからだのしくみく からだの中ってどうなってるの?!をまなぶ会



見て、触れて、 「楽しむセミナー」

10月23日、阿倍野区社協で令和5年度認知症講演会・研修会「くからだのしくみくからだの中ってどうなってるの?!をまなぶ会」が、開催されました。

この講演会は、健康増進、生活習慣病予防やフレイル、認知症予防の大切さを理解し、実践するために、まずは体の仕組みと働きについて学ぼうと、阿倍野区地域包括支援センターが主体となって企画したものです。住まいと介護研究所長で理学療法士の谷口昌宏さんを講師に、今回の第1回「内臓編」に



▲人体模型を触るのは小学生以来かも…と興味津々の参加者

続き、12月7日には第2回「骨格編」を予定しています。阿倍野区に住む民生委員・児童委員や区内の女性部長、専門職などを通じて、地域住民へ周知し、第1回には、60〜70代の16人が参加しました。

自分の体、詳しく 「知っていますか？」

まずは4班に分かれ、人体模型を使って体のつくりや仕組み、はたらきについて学びました。

「内臓の名前は知っています、体の中の位置やはたらきについてはなかなか理解できていないものです」と谷口さん。最初は恐る恐る人体模型を見ていた参加者も、会が進むにつれて馴れてくると、パーツを取り出してじっくり観察したり、講師の話に頷きながら笑い声をあげたりしていました。呼吸器系、消化器系、脳などはたらきを詳しく学んだ参加者からは、「心臓が真ん中にあることを知れた。左と思っていた」「消化器や脳の中の位置やはたらきがよくわかった。自分の体

体験型にすることで 関心を高める

「毎年、この時期に認知症講演会を開催して、認知症を理解したり予防について学んだりしていますが、『認知症』というだけでは参加者も集まりにくくなっています。座学で聞くだけではなく、昨年のVR（バーチャルリアリティ）体験会であつたり、体験型で趣向を凝らした内容を今後も企画していきたいです」と区社協の中川小百合包括支援担当係長。参加してもらうことで、自身の体について学ぶだけでなく、地域包括支援センターを身近に感じてもらうことで、困ったことがあれば相談してもらえようという関係づくりも心がけています。

第2回も「皆さんには骨の模型に触れてもらいます」と興味をそえられる内容の告知に、今回の参加者全員が「また参加したい」と回答していました。

風をよむ

精神障害のある人の 地域移行

大阪公立大学大学院生活科学研究科講師 杉山京

日本における精神障害のある人の数は、614・8万人に上ると推計され、そのうち28・8万人が入院医療を受けている。また、退院患者の平均在院日数を傷病分類別にみると「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」が570・6日と他の傷病と比べて最も長くなっている。しかし、精神障害のある入院患者の約4割が在宅生活での支援体制が整えば、退院可能であることが報告されており、地域支援の基盤づくりが求められている。

事実、日本精神神経学会は2023年5月に「わが国の精神科医療・保健福祉のあるべき姿について」を掲げ、このなかで精神医療における「人員配置の不足」や「長期入院患者の地域移行」、「地域医療の体制充実」が十分でないことを指摘している。このような長年にわたる精神医療の長期入院や閉鎖的な空間などの環境は、近年でも2020年の神出病院、2023年の滝山病院などの虐待事件を起す一因となっている。そのため、精神障害のある人の人権擁護の観点からも、地域移行の推進が一層重要である。

このような状況の中、国は2013年の精神保健福祉法の改正以降、医療保護入院者の退院促進のために「退院後生活環境相談員」を、入院患者50人以下に対して1人配置することを義務づけている。また、病院などと連携して障害のある人の地域移行や地域生活を支える機関として相談支援事業所などが整備されているが、地域移行が十分に実現されない実態を鑑みるならば、十分な人員配置や体制が確保されているとは言いがたいと考える。

そのほかにも精神障害のある人の地域移行に向けて、地域住民や専門職、当事者もが「ステイグマ、地域の医療・福祉に係る支援体制など、課題は山積しているが、誰もが人権意識や問題意識を常にもち、共生に向けた活動に取り組んでいくことが期待される。

学生対象

「福祉のおしごと 魅力発見ミーティング」開催報告

「福祉のおしごと 魅力発見ミーティング」を11月18日、大阪府社会福祉会館で開催しました。

このイベントは、大阪市社会事業施設協議会（経営委員会）、大阪市福祉人材養成連絡協議会、市社協が共催し、学生へ福祉の仕事の魅力を発信し、将来の職業として志す人を増やしていくことを目的としたものです。

高校生、専門学校生、大学生（大阪府・京都府・兵庫県下）など計27人の学生が会場・オンラインで参加し、さまざまな分野の社会福祉施設で働く若手職員9人が、施設の役割や仕事内容を紹介しました。後半は、WEBフォームを使って学生からの質問や感想を募り、「進路選択の決め手」「利用者とのコミュニケーションの工夫」「休みやシフト勤務の実際」などについて質問があり、全体でパネルトークを進めました。

参加者アンケートでは「大変よかった」との評価が約9割となり、施設見学や関心のある分野についてより深く聞きたいといった声も多く寄せられました。

今後、大阪市社会事業施設協議会ホームページや、市社協が運営するサイト「ふくしる大阪」などで、今回のイベントをまとめた動画や関連記事などを発信予定ですので、ぜひご覧ください。



▲児童養護施設、認定こども園、特別養護老人ホーム、救護施設、障がい児・者施設に勤める計9人が施設の役割・仕事内容を紹介

参加者の声

- 福祉の仕事には、さまざまな業種があることを学ぶ機会となりました。皆さんがいきいきとお話されているのが印象的でした。
- 休みはとれているか、趣味を楽しめているかなど、直接でないと得ることができない貴重なお話ばかりで非常に有意義でした。京都から来てよかったと思いました。
- 年齢の近い職員の方々からわかりやすく職場を説明いただき、またきっかけなども聞くことができとても参考になりました。進路に迷っていたので、ここでのお話を参考に自分の関心がどこにあるのかしっかり見つめていきたいです。
- 私は障がい者福祉に興味があるのですが、認定こども園や救護施設など、大学では勉強していない施設のことまでたくさんお話を聞けてよかったです。実際早くに聞いておけばよかった!と思うところもあったので、福祉のどの分野に携わるかを迷っている高校生などに聞いてほしいと思いました。

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

クルマの保険 家財の保険 火災の保険

www.ms-ins.com

